

産別会議は、1946(昭和21)年8月19日、電産、国鉄、鉄鋼、機器、全炭など21単産、組合員163万人をもって結成された。産別会議は当時、組織系統では左派のナショナルセンターの位置にあり、右派の総同盟(組合員85万人)を凌駕し、2・1スト、労働立法の制定、産業復興、最賃制の確立、労働協約の締結など日本の労働運動をリードした。戦後初期、日本の労働運動は「産別会議の時代」であった。

【その他の更新情報】

○最新の更新履歴

<http://oisr.org/notice/whatsnew.html>

○2002年度の更新履歴

<http://oisr.org/notice/renewal02.html>

○2001年度の更新履歴

<http://oisr.org/notice/renewal01.html>

△▽△▽△▽△▽△▽△▽ O I S R コ ラ ム △▽△▽△▽△▽△▽△▽△▽△

ハングルサイトを日本語で読む —— 韓日自動翻訳サイト紹介

韓国が世界有数のインターネット大国になりつつあること、とくにブロードバンドの普及ではトップを独走していることは良く知られています。ただ残念ながらハングルを読めない私には、その内容を知ることができず、もどかしい思いをしてきました。

もっとも、韓日自動翻訳ソフトを使えば、ハングルサイトでも、ある程度までその内容が分かることは、数年前に買った高電社の「ソウル/KJ」で体験済みでした。ところが、最近「ソウル/KJ」はなぜか機能しなくなりました。おそらくIEがver.5から、またWindowsもMEから韓国語のフォントが標準で入るようになったからではないかと推測しています。ハングルが文字化けせずに表示されるようになったのと引き替えに「ソウル/KJ」は使えなくなってしまったのです。

新しいソフトを買おうかどうかと、何度も売り場の前を行ったり来たりしましたが、「ソウル/KJ」が1万円弱だったのに、「j-Seoul2001KJ」は標準価格で49,800円、実売価格でも4万円はするので、けっきょく買わずじまいでした。ところが、なんとなくした悩みを無料で解決してくれるサイトがあるのを発見しました。それも複数のサイトがあります。

ひとつは韓国の検索サイト・ネイバーの日本法人が運営するウェブ翻訳サイト・チングー(友達)<http://chingu.friend.jp/>です。もうひとつは「All Korea」

<http://www.allkorea.co.jp/cgi-bin/allkorea.front>で、韓国の三星物産と三星電子の子会社、日本サムスン株式会社が運営しています。どちらも韓国系企業が運営しているわけで、韓日自動翻訳では日本は明らかに立ち後れているようです。この2つのサイトは、それぞれ特色があり、両者を使えば、韓国のインターネット事情を直接体験することができます。

チングーは、日本語の件名でハングル・サイトやファイルの検索ができます。試しに「労働」「研究」の2つの件名で検索すると4サイトと7007のファイルが出てきました。これをたどって行くと、それぞれのサイトが日本語に翻訳されて出てきます。ただ、翻訳は比較的早いのですが、質はかならずしも良いとはいえないようです。会員登録といった面倒な手続きなしにすぐ使える点は便利ですが、性能的にはAll Koreaに一歩譲る感があります。

一方、All Koreaの方は、URLを入れれば翻訳してくれるウェブ翻訳のほか、e-mail翻訳、テキスト翻訳、ファイル翻訳などがあり、韓日だけでなく日韓の双方向の翻訳をしてくれます。ただし、こちらは会員登録の必要があり、またIE4.0以上、cookieのセットが可能であることが必要で、Macやネットスケープでは不具合が出る場合があると断り書きがあります。

さっそくウェブ翻訳から試してみました。まずはソウル大学校 <http://www.snu.ac.kr/> と仁荷大学校 <http://inha.ac.kr> を試してみました。どちらも十分理解可能な日本語で出てきました。問題があるとすれば、「仁荷大学校」のようにまとまった言葉は間違わないのですが、「仁荷」(これは仁川とハワイの頭文字を組み合わせた言葉だそうです。仁川出身のハワイ在住者が資金を出してつくった大学なのです)といった単独では意味をなさない言葉は翻訳できず、「引下」といった意味不明の語になります。しかし、これは辞書登録がすすめば解決する問題ですし、パズルを解

くように考えれば推測可能です。

そこで次に旧知の仁荷大学校尹辰浩(ユン・ジンホ)教授のホームページ
<http://dragon.inha.ac.kr/~ecoyoon/main.htm>を試して見ました。実は尹教授のホームページのなかに私のサイトのURLが記されていることを前から気づいていたので、何とかその内容を知りたいと思っていたのです。ところが、これは失敗でした。トップページはなんとかあったのですが、現在MITに留学中の尹教授が延々と書き続けている「ボストン日記」は意味不明の漢字の文字列になってしまいます。どうやらウェブ翻訳は、短い文章はこなせても、ちょっと長文になるとダメらしいのです。

そこで、今度はテキスト翻訳を試みました。まずハングルの「ボストン日記」に行っ
て、右クリックで「すべてを選択」→「コピー」ついで、これを韓日テキスト翻訳の
ページの左側にある「ここで韓国語を入力してください」とある枠内に貼り付けて、翻
訳させてみました。だいぶ時間はかかりましたが、今度は成功しました。なお、画面上
の自動折り返しがなく、そのままでは読みにくいので、これも右クリックで「すべてを
選択」→「コピー」して、ワープロソフトかエディターに貼り付けると良いでしょう。
意味不明の箇所もありますが、全体的にみればかなり質の良い日本語が出てきました。
意味不明のなかでも、漢字語源の言葉はかなり推測がつかます。たとえば、「法廷大
学」は「法政大学」のことだな、とか、「婦人」となっているのは「夫人」に違いない
といった具合です。このサイトで使われている翻訳エンジンなら、辞書を鍛えさえすれ
ば、ほぼ実用レベルに達しているのではないかと感じました。
ただ問題は、バナーやボタンなど画像中心につくられているサイトは、当然のことな
がら日本語になりません。また、これはおそらく韓国でブロードバンドが普及してい
ることと関連があるのかもしれませんが、日本に比べても、トップページであまりテキストを
使わず画像だけで構成しているサイトが多いようです。日本でも、ブロードバンドの普
及とともに画像を多用するサイトが増えるだろうと思います。しかしこうした傾向は、
日本語を知らない海外の閲覧者にはマイナスになることを知っていて欲しいと思いま
す。これは、なにも海外の閲覧者だけでなく、視覚障害者が音声読み上げで見るとも
起こることなので、見栄えだけ考えて、画像を多用することは避けるべきではないで
しょうか。

(にむら かずお・名誉研究員)

OISR.ORGでは皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。
更新情報ニュースレター“OISR-Watch”(無料)をご希望の方はこちらにお申し込み
ください。

E-mail: webmaster@oisr.org

購読を中止するときはこちらにご連絡ください。

法政大学大原社会問題研究所 (<http://oisr.org>)
編集担当者:鈴木 玲
〒194-0298 東京都町田市相原町4342
TEL 042-783-2307 FAX 042-783-2311

OISR-WATCH

法政大学大原社会問題研究所 (<http://oisr.org>)
